

# 令和7年 秋季俳句講座

「私と季語（6）」

## 第1回 小林 恭二

「季節の誕生・季節から季語へ」

中国で生まれた季節が、中国でどのように変容し、  
それがどのようにして日本に伝わり、どのように  
日本で受容され、季語を生むにいたったかを語る。

主催 公益社団法人俳人協会

## 小林恭二（プロフィール）

作家、専修大学文学部教授

1957年 兵庫県生まれ

1984年 「電話男」で海燕新人文学賞。

1998年 「カブキの日」で三島由紀夫文学賞受賞。

以下俳句関係

1977年 東京大学学生俳句会入会。

1980年 俳誌「未定」に入会。

1981年 俳句研究50句競作で二席、「未定」退会。

1991年 「俳句という遊び」（岩波新書）

句集「春歌」（リブポート）

1995年 「俳句という愉しみ」（岩波新書）

2013年 「この俳句がすごい」（角川俳句ライブラリー）

2014年 「これが名句だ」（角川俳句ライブラリー）

2020年ゝ 兜太現代俳句新人賞審査委員

## 序論

さまざまな季節に対する考え方。

世界標準の季節（イギリス気象庁、フランス気象局等）

3月1日から春。6月1日から夏。

気候温暖化に即した五つの季節。春、初夏、猛暑、秋、冬  
気温に即した北欧の定義。0度を超えると春、十度を超え  
ると夏。

会計年度や学制、テレビ放送にあわせた季節。4月1日か  
らを春。7月1日から夏

その中で本論では現行歳時記、具体的には二十四節季に即  
した季節について考えたい。

### ① 日本人は季節を知らなかった？

日本に関する世界最古の資料「魏略」で日本（倭）はどの  
ように記されているか。

「その俗正歳四節を知らず。ただ春耕秋納を計って年紀と  
なす」

### ② 中国における季節の誕生。

紀元前4C 太陽暦である二十四節氣が誕生する。夏至、  
冬至を二至、春分、秋分を二分とし、立春、立夏、立秋、  
立冬を四立とする。これらをまとめて八節という。太陽  
の黄道上の位置を基準とする。

### ③ 中国の季節は現実とずれているのか。

洛陽の年間平均気温は7月が最高で1月が最低。東京は  
8月が最高、1月2月が最低。日本（モンスーン気候）と  
黄河流域（ステップ気候）の気候の違い。

④ 中国において季節の概念が変わる大事件が発生する。4C  
西晋の滅亡。南北朝の開始。中国貴族並びに王族の南遷。  
南京（建康）が首都に。気候概念が日本と同じモンスーン気  
候に変わる。

⑤ 荊楚歳時記の誕生 6C 南朝梁の宗懔が執筆

⑥ 荊楚歳時記が日本に伝わる。7C頃。七草粥の習慣なども  
日本に伝わる。

⑦ 当時の日本の詩歌 万葉集、卷一の諸歌。日本では南方か  
ら伝わった「うたがき」が主流だった。

⑧ 隋唐の誕生と東アジアの緊張。663年、白村江の戦いで  
の敗北。以後、日本の国家としての文化的覚醒。五音七音  
を基本とする和歌の誕生。それとともに和歌に季節が導  
入される。季節と和歌の融合。

⑨ 四季並びに相聞歌を中心とした勅撰和歌集の編纂。

⑩ 俳諧における四季。季語の誕生。

# 令和7年 秋季俳句講座

「私と季語(6)」

◆ 第1回講師 — 小林恭二

動画配信日 10月7日(火)

◆ 第2回講師 — 宮坂静生

動画配信日 10月14日(火)

◆ 第3回講師 — 西山 睦

動画配信日 10月21日(火)

◆ 第4回講師 — 今井 聖

動画配信日 10月28日(火)